



# 今週の T2 経済レポート

2020 年 4 月 17 日号

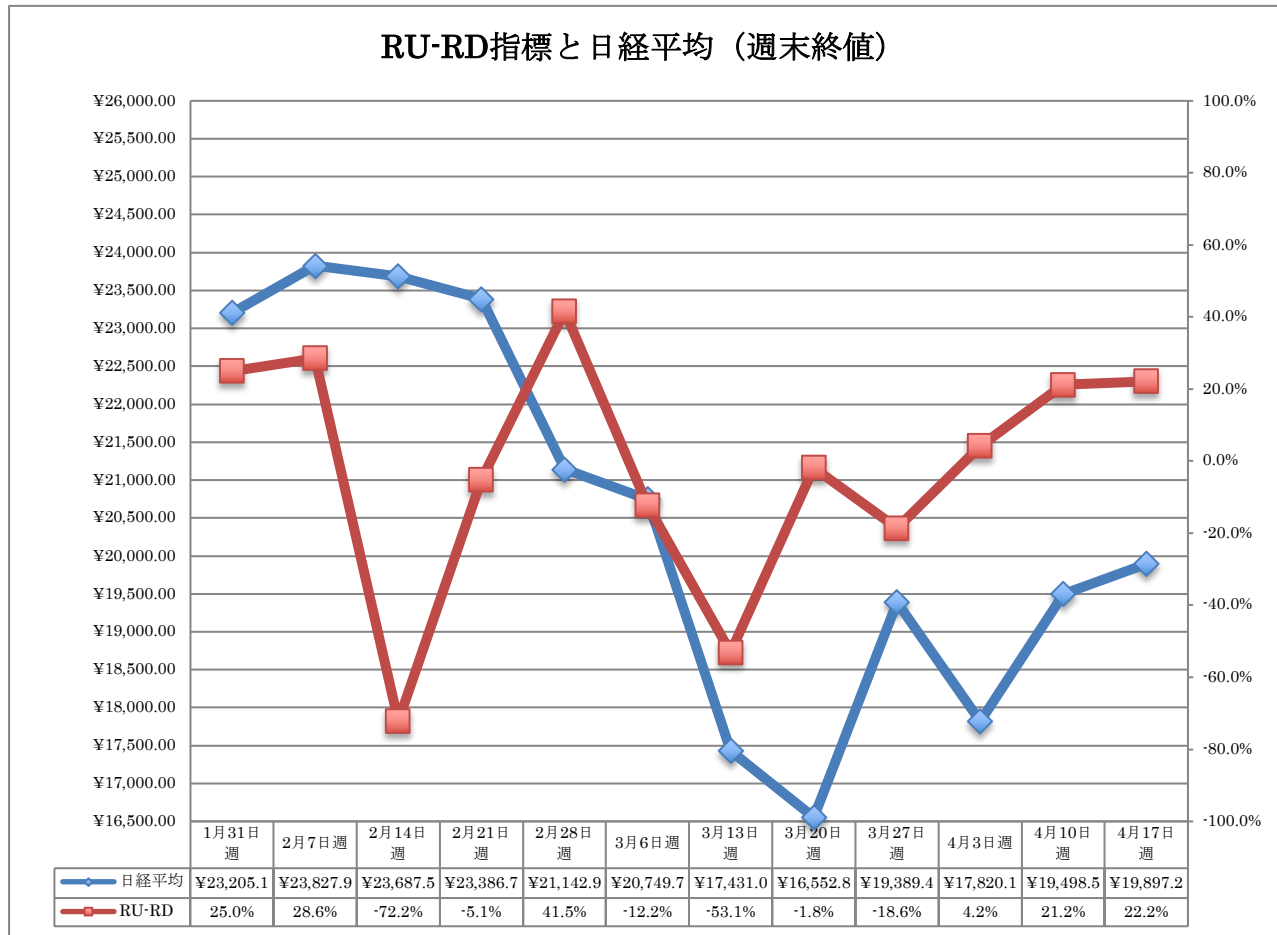
## ■■■ 市場ウオッチ ■■■

### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は堅調相場継続が期待できる週ですが、史上最大の上げ幅・上昇率となった先週に前倒しされた可能性があります。今週(4/13~4/17)の相場を占う『RU-RD 指標』は 4 月 3 日週が +22.2%と、昨年 8 月 12 日週~9 月 9 日週の 5 週連続以来となる 3 週連続のプラス圏となったことで堅調相場がさらに継続しそうです。来週(4/20~4/24)の相場を占う 4 月 10 日週が +11.1%と 4 週連続のプラス圏となったことで堅調相場継続がさらに期待できるかたちです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング 1 と 2)」「売り(レーティング 3 と 4)」銘柄比率』は 2 度の 5 週連続での上限ゾーンを突破後、1 月 31 日週 -18.6%→2 月 7 日週 -30.0%→2 月 14 日週 -11.4%→2 月 21 日週 -14.3%→2 月 28 日週 -71.4%→3 月 6 日週 -80.0%→3 月 13 日週 -91.4%→3 月 20 日週 -92.9%→3 月 27 日週 -90.0%→4 月 3 日週 -85.7%→4 月 10 日週 -85.7%と推移し、11 週連続マイナス圏、かつ 19 年 5 月 13 日週~6 月 10 日週以来となる下限ゾーンの -40%超に 7 週連続で陥っています。また、同指標が -80%超となったのは「チャイナ・ショック」の 16 年 1 月 18 日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは 2009 年 9 月の「T2」開発以来初めての極めて稀な水準、かつ 3 週連続 -90%超継続していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。先々週以来、2 週連続で -80%台にマイナス幅が縮小したことで底入れの兆しが出てきていますが、-40%を割り込んでくると本格的な反発が始まりそうです。

今週は、経済指標では、国内は、15 日に 3 月訪日外客数、一方、海外は、15 日に米 3 月小売売上高、米 4 月 NY 連銀製造業景気指数、16 日に米 3 月住宅着工件数、米 4 月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数、17 日に中国 1-3 月期 GDP、中国 3 月工業生産、中国 3 月小売売上高、などが予定されています。15 日発表の 3 月小売売上高は、前月比 -6.4%と予想されていますが、新型コロナウイルスの影響による雇用悪化で個人消費の落ち込みが予想を上回るかどうかが目まぐるしく注目されます。また、16 日発表の 4 月フィラデルフィア連銀景況調査(製造業景気指数)は -25 と大幅な低下が予想されています。このほかのイベント・トピックスとしては、米連邦準備制度理事会(FRB)

は 15 日に地区連銀経済報告(ページブック)の公表を予定。新型コロナウイルスの蔓延拡大を受けた生産停止、休業を強いられた製造業や小売りが全米地区でどの程度、落ち込んだか状況が明らかになりますが、4月の地区連銀製造景況指数の結果には新型コロナウイルス危機の影響が100%織り込まれるため特に注目が集まりそうです。」とコメントしました。



3月27日週	4月3日週	4月10日週	4月17日週
¥19,389.43	¥17,820.19	¥19,498.50	¥19,897.26
-18.6%	4.2%	21.2%	22.2%

先週の日経平均は、高値 19922 円(4月17日)・安値 19014 円(4月13日)と推移、2週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、3月米小売売上高が記録的な落ち込みとなったことや4月のフィラデルフィア連銀製造業景況指数が過去最大に落ち込む一方、米国では新型コロナの感染拡大がピークを迎えつつあるなかトランプ米大統領が早期の経済活動再開に意欲を示したことが好感され、上値・下値目標値を達成しない中途半端な週となったものの週間ベースで+399 円高と2週連続続伸で終了しています(先週予告していた上値メド 20188 円~20591 円(+2%かい離)//下値メド 17697 円~17343 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大

台替えて、猶予で 8 日までに 19500 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。20000 円大台替えて仕切り直し、逆に、18500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えては、3 月 26 日までに 20000 円大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。20000 円大台替えて仕切り直し、逆に、17000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えての法則では、時間切れで、20000 円大台替えて仕切り直し、17000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期→となり、方向感がなくなり、乱高下しやすいかたちになりましたが、節目の 20000 円大台替えてで本格的な反発局面に入るかたちです。

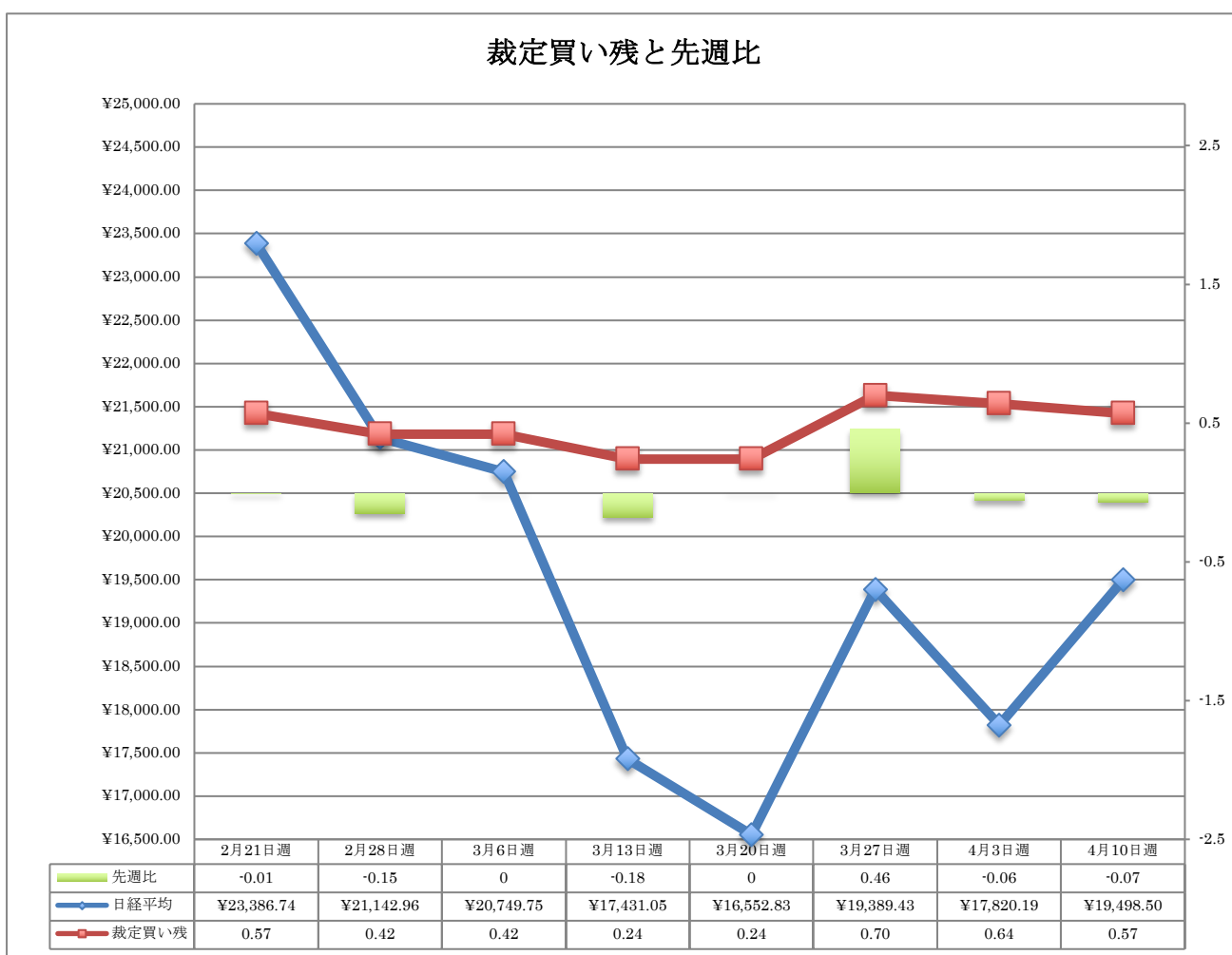
日経平均を左右する NY ダウは、高値 24264 ドル(4 月 17 日)・安値 23095 ドル(4 月 13 日)と推移、2 週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、ウイルス感染の拡大を阻止するための経済封鎖(外出制限)の影響で、15 日発表の 3 月小売売上高や 4 月 NY 連銀製造業景況指数が記録的な落ち込みをみせる一方、トランプ米大統領が米国経済の再開指針を表明したことが好感されて逆に、米国株式は強い動きを見せ、上値・下値目標値を達成しない中途半端な週となったものの週間ベースでは+523 ドル高と 2 週連続続伸で終了しています(先週予告していた上値メド 25355 ドル~25862 ドル(+2%かい離)//下値メド 21898 ドル~21460 ドル(-2%かい離))。「大台替えての法則」では、短期の大台替えて、4 月 10 日(休場のため猶予で週明け 13 日)までに 24500 ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せずに時間切れ。24500 ドル大台替えて仕切り直し、逆に、22500 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、4 月 8 日までに 24000 ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、実現せずに時間切れ。25000 ドル大台替えて仕切り直し、逆に、22000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、4 月に 22000 ドル大台替えて仕切り直しが入り、同時に、23000 ドル大台替えてカウントダウンの上昇局面入り、更に、24000 ドル大台替えてカウントダウン継続に 0 ヶ月、従って、4 月中に 25000 ドル大台替えてカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、23000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期↑、となり、目先は方向感がなくなり、乱高下しやすいかたちに変化し始めてます。

一方、為替は、ドル・円が 108.54 円~106.91 円(先週予告していた上値メド 109.32 円~110.41 円(+1%かい離)//下値メド 106.43 円~105.36 円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週が 2 週連続で継続してますが、実質 3 週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.0990~1.0810(先週予告していた上値メド 1.1119~1.1230(+1%かい離)//下値メド 1.0678~1.0571(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週が 2 週連続で継続してますが、実質 3 週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、118.74 円~116.52 円(先週予告していた上値メド 119.36 円~120.55 円(+1%かい離)//下値メド 115.68 円~114.52 円(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週でしたが、が 2 週連続で継続して

ますが、実質 3 週連続の円高・ユーロ安。前の週の円>ユーロ>ドルが実質 3 週連続で継続したかたちです。連邦準備制度理事会 (FRB) の中小企業、州・自治体支援の最大 2.3 兆ドルの資金供給措置を背景としたドル売りが後退しましたが、米国の 3 月小売売上高や 4 月 NY 連銀製造業景気指数などの経済指標が予想外に悪化したことに加え、16 日発表の新規失業保険申請件数が 500 万人を大幅に上回り、4 週間で 2000 万人超が職を失う一方、米トランプ政権の経済活動再開に向けた指針が示されたことで都市封鎖の段階的な解除への期待が広がり始め方向感のない中途半端な週となったかたちです。

## <裁定買い残>

1月以来となる7000億円台に急増後、2週連続の若干の減少となっています。過去の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000円億円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。逆に、「裁定売り残」は、前の週比+4119億円の2兆165億円と4週間振りに増加で、昨年9月2日週以来の2兆円台に急増し、直近の急落調整を演出しています。



	3月20日週	3月27日週	4月3日週	4月10日週
日経平均	¥16,552.83	¥19,389.43	¥17,820.19	¥19,498.50
裁定買い残	0.24	0.7	0.64	0.57
先週比	0	0.46	-0.06	-0.07

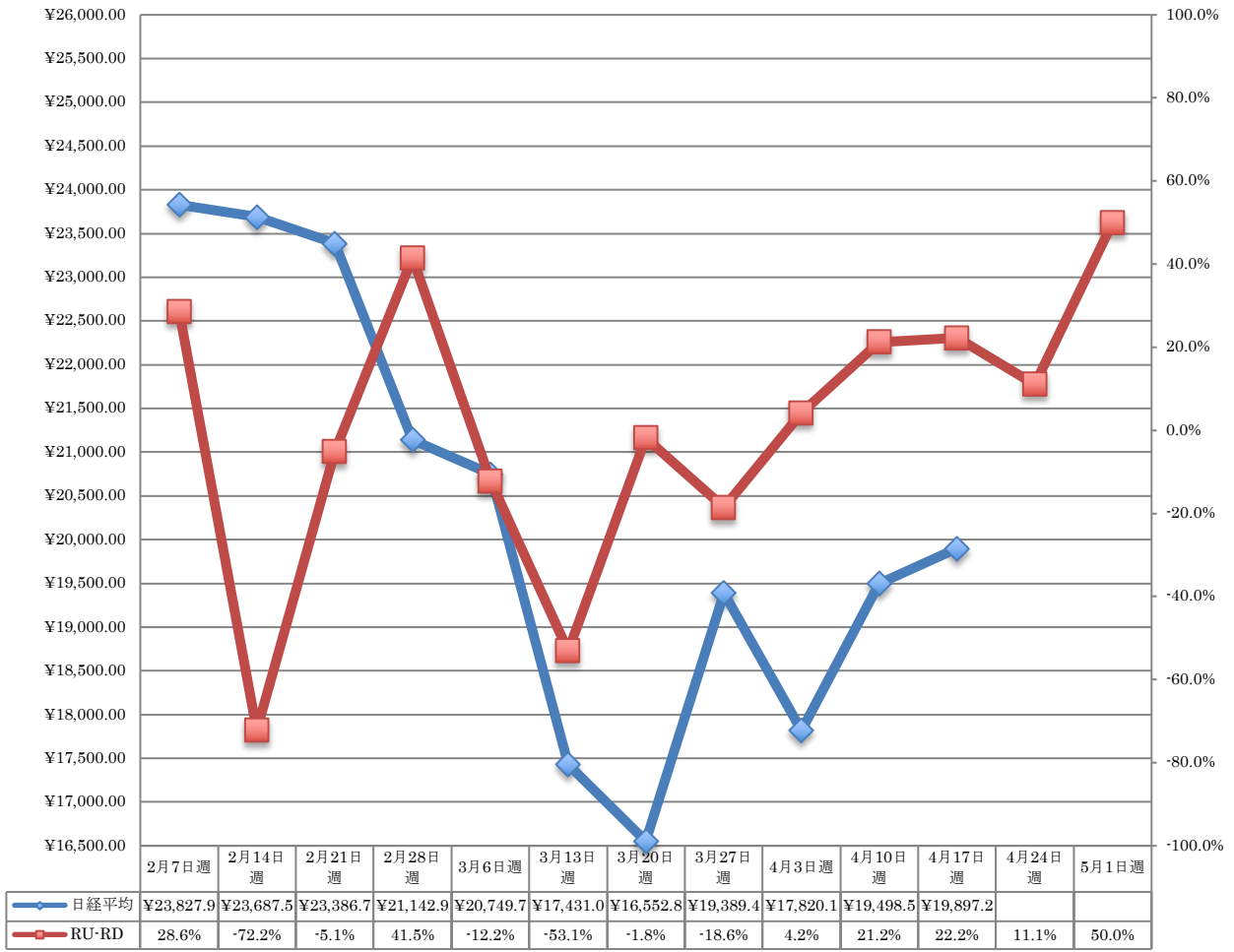
単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は堅調相場がさらに継続することが期待できる週となりそうです。今週(4/20~4/24)の相場を占う『RU-RD 指標』は4月10日週が+11.1%と4週連続のプラス圏となったことで堅調相場がさらに継続することが期待できる週です。さらに、来週(4/27~5/1)の相場を占う4月17日週が+50.0%と5週連続のプラス圏となったことでさらに堅調相場が継続するかたちです。5週連続のプラス圏は昨年8月12日週~9月9日週の5週連続プラス圏以来。前回の5週連続プラス圏は19年末まで株価が約2割上昇する起点となりましたが、今回も同様のシグナルになるかが注目されます。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%→4月17日週-82.9%と推移し、12週連続マイナス圏、かつ19年5月13日週~6月10日週以来となる下限ゾーンの-40%超に8週連続で陥っています。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来ですが、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めての極めて稀な現象。それが3週連続-90%超継続していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。僅かながらですが3週連続で-80%台にマイナス幅が縮小することで底入れの兆しが出てきていますが、-40%を割り込んでくると本格的な反発が始まりそうです。

今週は、経済指標では、国内は、20日に3月貿易統計、3月コンビニエンスストア売上高、24日に3月全国消費者物価指数、一方、海外は、20日に米3月シカゴ連銀全米活動指数、22日に米2月FHFA住宅価格指数、週次新規失業保険申請件数、23日に4月マークイット製造業PMI、米3月新築住宅販売件数、24日に米3月耐久財受注が予定されています。23日発表の米マークイット4月製造業PMIは38.5と、3月の48.5を大幅に下回る見込みです。また、24日発表の米3月耐久財受注も前月比-10.0%と、前回の+1.2%から大幅な悪化が予想されています。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



4月10日週	4月17日週	4月24日週	5月1日週
¥19,498.50	¥19,897.26		
21.20%	22.20%	11.10%	50.00%

## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 20475 円～20884 円 (+2%かい離)

下値メモ 18689 円～18315 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 25475 ドル～25984 ドル (+2%かい離)

下値メモ 23254 ドル～22788 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 108.98 円～110.06 円 (+1%かい離)

下値メモ 107.47 円～106.39 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.0994～1.1103 (+1%かい離)

下値メモ 1.0714～1.0606 (-1%かい離)

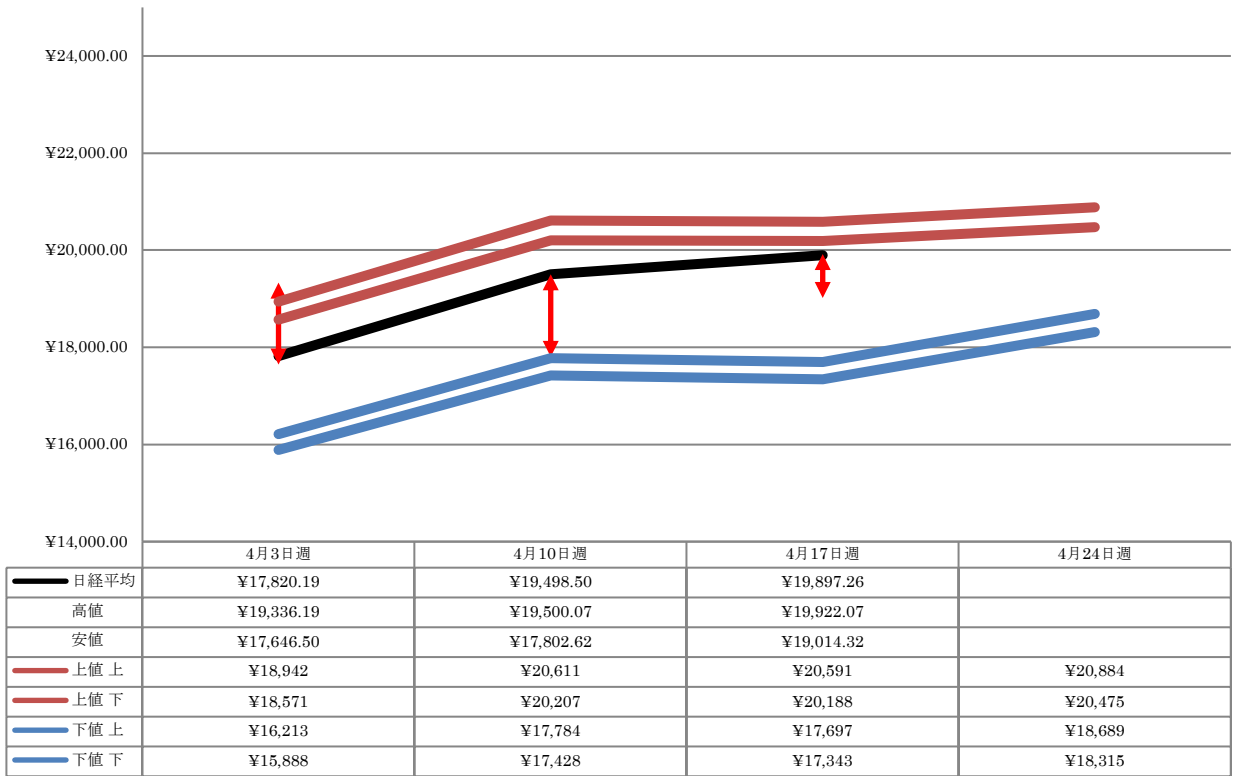
<ユーロ円>

上値メモ 119.01 円～120.20 円 (+1%かい離)

下値メモ 119.09 円～117.89 円 (-1%かい離)



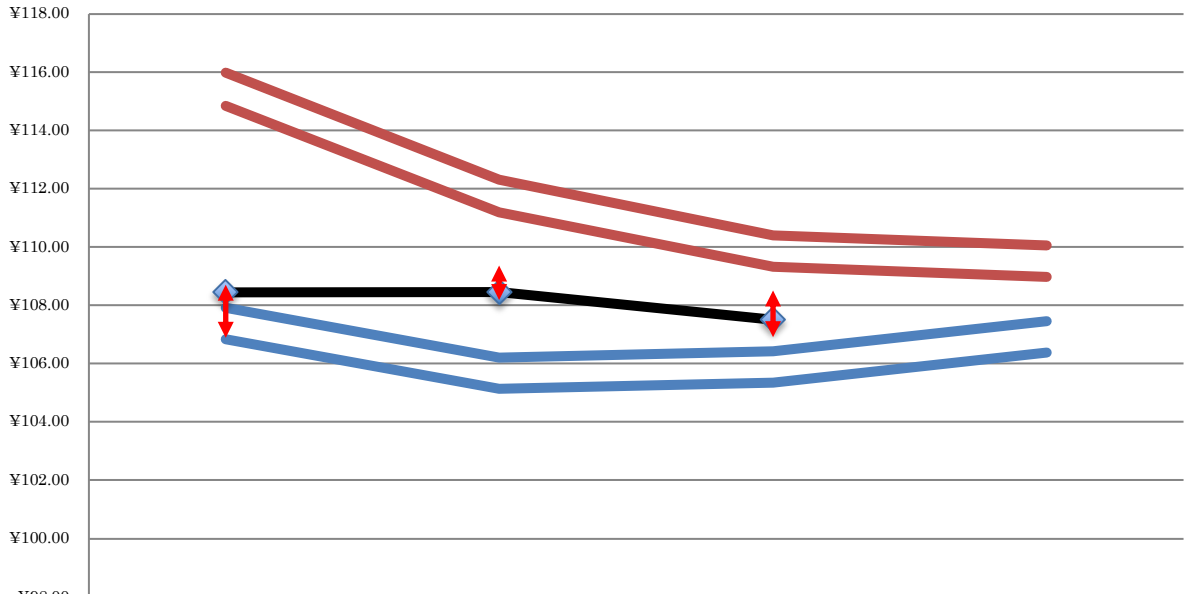
### 日経平均



### NYダウ

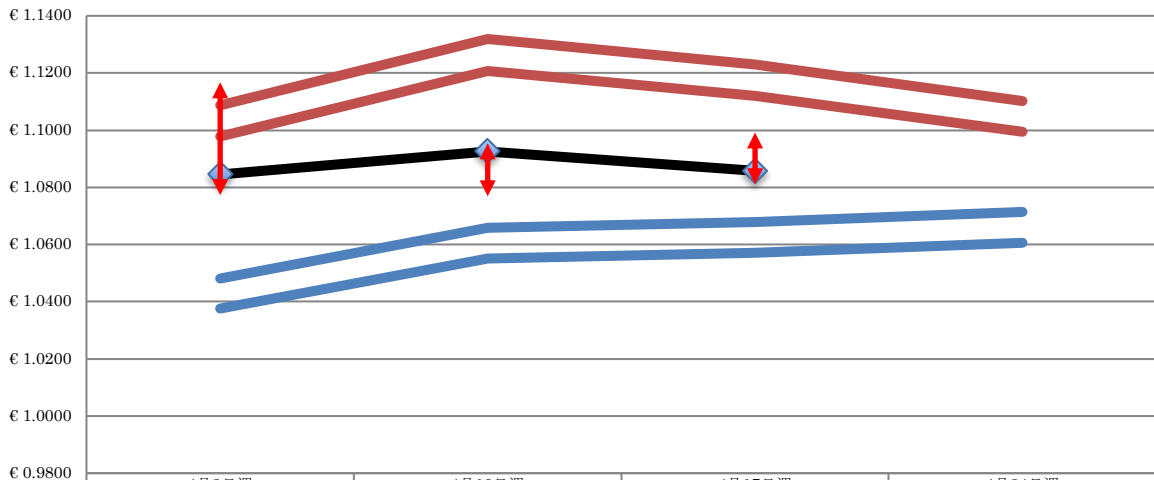


## ドル円



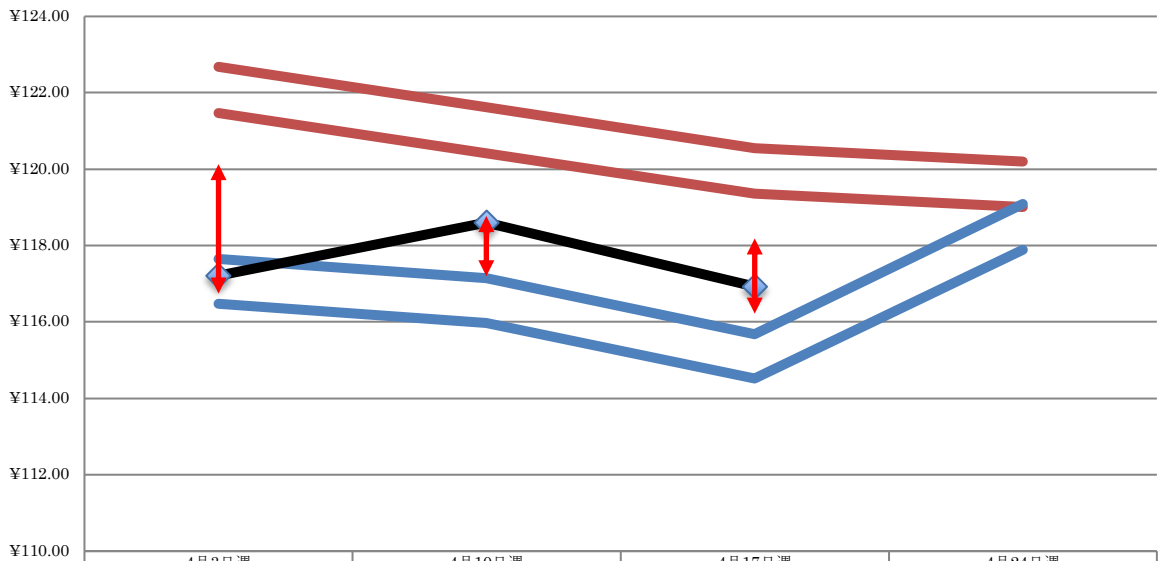
	4月3日週	4月10日週	4月17日週	4月24日週
上値 上	¥115.99	¥112.31	¥110.41	¥110.06
上値 下	¥114.85	¥111.20	¥109.32	¥108.98
下値 上	¥107.92	¥106.21	¥106.43	¥107.47
下値 下	¥106.84	¥105.14	¥105.36	¥106.39
ドル円	¥108.45	¥108.46	¥107.51	
高値	¥108.72	¥109.37	¥108.52	
安値	¥106.89	¥108.19	¥106.91	

## ドルユーロ



	4月3日週	4月10日週	4月17日週	4月24日週
上値 上	€ 1.1087	€ 1.1319	€ 1.1230	€ 1.1103
上値 下	€ 1.0978	€ 1.1207	€ 1.1119	€ 1.0994
下値 上	€ 1.0481	€ 1.0659	€ 1.0678	€ 1.0714
下値 下	€ 1.0376	€ 1.0552	€ 1.0571	€ 1.0606
ドルユーロ	€ 1.0845	€ 1.0925	€ 1.0858	
高値	€ 1.1168	€ 1.0954	€ 1.0992	
安値	€ 1.0773	€ 1.0769	€ 1.0812	

## ユーロ円

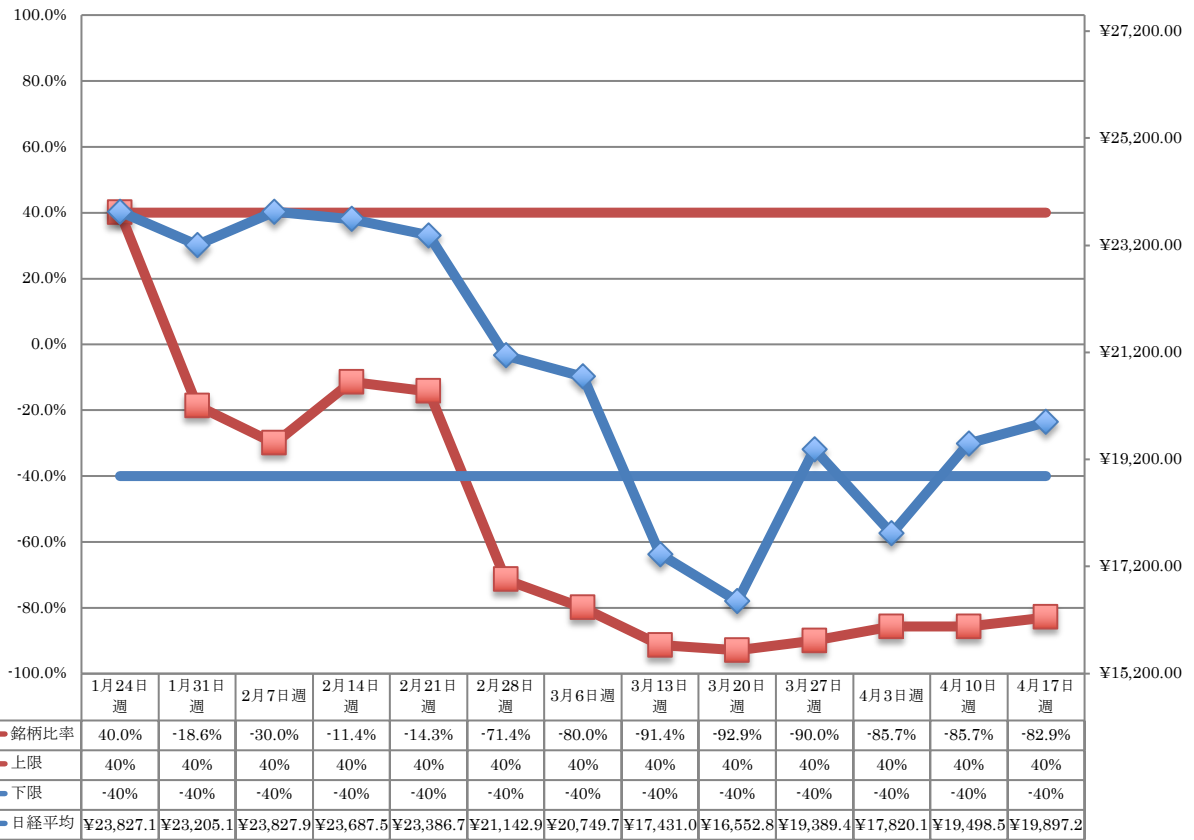


	4月3日週	4月10日週	4月17日週	4月24日週
上値上	¥122.68	¥121.62	¥120.55	¥120.20
上値下	¥121.47	¥120.42	¥119.36	¥119.01
下値上	¥117.65	¥117.15	¥115.68	¥119.09
下値下	¥116.47	¥115.97	¥114.52	¥117.89
ドルユーロ	¥117.21	¥118.60	¥116.93	
高値	¥120.13	¥118.77	¥118.18	
安値	¥116.74	¥117.20	¥116.22	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は2度の5週連続での上限ゾーンを突破後、1月31日週-18.6%→2月7日週-30.0%→2月14日週-11.4%→2月21日週-14.3%→2月28日週-71.4%→3月6日週-80.0%と推移→3月13日週-91.4%→3月20日週-92.9%→3月27日週-90.0%→4月3日週-85.7%→4月10日週-85.7%→4月17日週-82.9%と推移し、12週連続マイナス圏、かつ19年5月13日週～6月10日週以来となる下限ゾーンの-40%超に8週連続で陥っています。また、同指標が-80%超となったのは「チャイナ・ショック」の16年1月18日週以来の極めて低い水準ですが、-90%超となったのは2009年9月の「T2」開発以来初めての極めて稀な現象で、それが3週連続-90%超継続していることこそが目先、底値圏であることを示唆しています。僅かながらですが3週連続で-80%台にマイナス幅が縮小したことで底入れの兆しが出てきていますが、-40%を割り込んでくると本格的な反発が始まりそうです。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。